



誠信交隣 21

縁地連だより

No.15



易地聘礼儀式

2011年11月 長崎県対馬市
朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会

朝鮮通信使縁地連絡協議会

目 次

- はじめに 朝鮮通信使縁地連絡協議会会長・・・1
- 朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書の締結・・・2
- 第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会对馬大会 長崎県 対馬市・・・3
- 釜山文化財団のご紹介 釜山広域市 財団法人釜山文化財団・・・8
- “海とみどり 歴史を活かす癒しの島 壱岐” 長崎県 壱岐市・・・12
- 第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会对馬大会に参加して
山口県 かみのせき郷土史学習にんじゃ隊・・・13
- 2012年下関市のイベント紹介 山口県 下関市・・・17
- 蘭島文化振興財団「松濤園」のご紹介 広島県 蘭島文化振興財団・・・18
- 「長浜・戦国大河ふるさと博」を開催します！ 滋賀県 長浜市・・・19
- 平成23年度芳洲会（高月町）の活動 滋賀県 芳洲会・・・20
- 大垣市の概要、朝鮮通信使と郷土館、イベント情報等の紹介
岐阜県 大垣市・・・22
- 川越唐人揃いパレード 埼玉県 川越唐人揃いパレード実行委員会・・・24
- 第3次朝鮮通信使友情ウォーク韓国だけの「感謝の旅」
埼玉県 21世紀の朝鮮通信使友情ウォークの会・・・25
- 朝鮮通信使行列振興会 長崎県 対馬市・・・29
- 会員名簿・・・31

はじめに

朝鮮通信使ゆかりの自治体、関係団体及び個人会員の皆様には、益々ご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年は、最後の朝鮮通信使来日及び対馬易地聘礼200周年を記念し「第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を長崎県対馬市で開催し、全国からたくさんの方々にご集まりいただきありがとうございました。



国交の断絶から回復するまでの対馬藩主及び対馬島民の苦悩と朝鮮半島との深い結びつきを表した市民劇団によりますミュージカル「対馬物語」をはじめ、韓国舞踊、朝鮮通信使パレード、200年前の記録に基づいた「対馬易地聘礼儀式」の再現、対馬ならではの異国情緒を楽しんでいただけましたでしょうか。

特別史料展、観光PR展、シンポジウム等では、たくさんの方々にご協力・ご支援を賜り心から感謝申し上げます。

また、万全の準備でお迎えしなければならないところ、宿泊施設の不足や当日の悪天候による飛行機の欠航など、ご不便をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

現在、対馬では、九州及び韓国との間で空路・航路により結ばれており、それぞれ福岡と釜山に対馬事務所を設置し、交流の拠点として活動しているところです。

太古からそうであったように、朝鮮通信使が往来していた往時のように、朝鮮半島と日本の架け橋となり、日韓交流の拠点として人的交流だけでなく、地理的条件を活かした新たな経済交流を目指しているところです。

さて、本年5月には、全国交流会を釜山広域市で「朝鮮通信使祭り」にあわせ開催いたします。

日韓合同によるシンポジウムや、当時の草梁倭館の跡地「龍頭山公園」をメイン会場に日韓の芸能公演、朝鮮通信使パレード等を実施する予定ですので、皆様多数のご参加をお願い申し上げます。

最後に、会員皆様の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

2012年3月1日

朝鮮通信使縁地連絡協議会 会長
対馬市長 財 部 能 成

朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書の締結

朝鮮通信使縁地連絡協議会では、2005年9月に社団法人朝鮮通信使文化事業会との間において、「朝鮮通信使日・韓文化交流事業共同推進協定書」を締結し、朝鮮通信使に関するイベント開催など日韓文化交流事業を共同で推進してまいりました。

2010年4月26日に社団法人朝鮮通信使文化事業会が財団法人釜山文化財団と統合したため、2011年度縁地連絡協議会の場において、改めて財団法人釜山文化財団との間において「朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書」を締結いたしました。

朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書

日本国の朝鮮通信使縁地連絡協議会と大韓民国釜山広域市の財団法人釜山文化財団は、善隣友好の証である「朝鮮通信使」による文化交流を拡大し、友好増進を図るため「朝鮮通信使日韓文化交流事業」を共同で推進することを目的に、朝鮮通信使対馬馬場地聘礼200周年を機に協定書を締結し、下記の事項に対して合意する。

1. 両団体は、朝鮮通信使に関する日韓文化交流事業を持続的に共同推進する。
2. 両団体は、「朝鮮通信使日韓文化交流事業」を両国の国家次元での国際行事として発展させるために共同努力する。
3. 「朝鮮通信使日韓文化交流事業」に関連した細部事項は両団体が相互協議して推進する。

本協定書は、日本語と韓国語で各2部を作成し、それぞれ1部ずつ所持する。署名の日から効力が発生する。

2011年11月5日

朝鮮通信使縁地連絡協議会
会長

財団法人釜山文化財団
代表理事

조선통신사 한일 문화교류사업 공동 추진 협정서

대한민국 부산광역시의 계단법인 부산문화재단과 일본의 조선통신사 연지연락협의회는, 선린우호의 상징인 '조선통신사'에 의한 문화교류를 확대하고 우호증진을 도모하기 위하여 '조선통신사 한일 문화교류사업'을 공동으로 추진하는 것을 목적으로, 마지막 조선통신사의 방일 200 주년을 계기로 협정서를 체결하고 다음 사항에 대하여 합의한다.

1. 양 단체는 조선통신사에 관한 한일 문화교류사업을 지속적으로 공동 추진한다.
2. 양 단체는 '조선통신사 한일 문화교류사업'을 양국 국가 차원의 국제 행사로 발전시키기 위해 공동 노력한다.
3. '조선통신사 한일 문화교류사업'과 관련한 세부사항은 양 단체가 상호 협의하여 추진한다.

본 협정서는 한국어와 일본어로 2부씩 작성하여, 각자 1부씩 보관한다. 서명일부 효력이 발생한다.

2011년 11월 5일

계단법인 부산문화재단
대표이사

조선통신사연지연락협의회
회장

対馬易地聘礼200周年記念事業の取組について

2011年11月5日(土)、6日(日)に開催いたしました、最後の朝鮮通信使来日200周年記念「第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会对馬大会」には、国内外からたくさんの方々にご来島いただきまして誠にありがとうございました。

最後の朝鮮通信使が来日した1811年は、これまでの通信使とは違い、江戸から幕府の要人が派遣され、対馬で国書交換の儀式が執り行われました。(対馬易地聘礼)

それから、丁度、200周年ということで、対馬での開催を希望し4回目となる対馬大会及び関連事業を開催したところです。

皆様には、島ならではの不便やご心配をおかけしましたが、暖かいご理解とご支援・ご協力により無事終了することができましたことに心から感謝申し上げます。

以下、対馬大会の概要及び関連行事をご紹介します。

【11月5日(土)】

■朝鮮通信使縁地連絡協議会理事会・総会



縁地連 財部能成会長(左)と
釜山文化財団 南松祐代表理事(右)



○平成22年度の事業報告・決算報告、平成23年度の事業計画・予算等を審議していただきました。

(写真右)

○財団法人釜山文化財団と「朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書」を締結しました。(写真左)

■全国交流会開会行事

○大会実行委員会長、縁地連会長のあいさつのあと、縁地連活動功労者へ感謝状が授与されました。



永年にわたる日韓文化交流功労
前釜山文化財団 代表理事 姜南周(かん・なむじゅ)氏



テーマソング「AGAIN」の
作詞・作曲 下村正勝氏

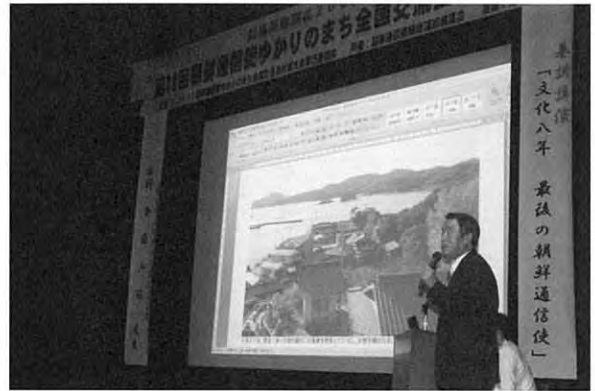
いさりび
■対馬市民劇団「漁火」によるミュージカル「対馬物語」公演



○国交断絶から回復までの対馬藩主及び対馬島民の苦悩を描いた物語です。

■基調講演

「文化八年 最後の朝鮮通信使」
対馬市文化財保護審議会委員
齋藤弘征氏



■シンポジウム



「朝鮮通信使の200年から何を学ぶか」



■韓国芸能公演



「ペギンセ舞踊団」
「TARO」

■地域史研究会総会・特別講演

特別講演「李藝について」

講師：西南学院大学非常勤講師

嶋村初吉氏



■閉会行事

○対馬大会実行委員長の松原一征氏（写真左）から次回開催地の釜山文化財団代表理事南松祐氏（写真右）へ大会旗の引き渡しがありました。

次回は、2012年5月に釜山広域市で開催します。皆様多数のご参加をお願いします。



○大会歌「AGAIN」を対馬高等学校吹奏楽部の演奏と下村正勝氏のコラボで大会行事を締めくくりました。



【11月6日（日）】

■フィールドワーク

○生憎の雨となりましたが、多数ご参加いただきありがとうございました。



■朝鮮通信使パレード



■易地聘礼儀式（国書交換式）



◆長崎県対馬市と滋賀県長浜市が「友好のまち縁組」を締結：11月4日（金）

雨森芳洲先生の出身地高月町と、生涯を外交官として過ごされた厳原町は、昭和59年から交流を深めてきました。両町ともそれぞれ合併により長浜市、対馬市として誕生したことにより、対馬大会の前日11月4日に友好のまち縁組を締結しました。



締結式には、長浜市から藤井勇治市長、吉田豊議長をはじめとする長浜市関係者の皆様にご出席いただき、締結書への署名、市旗・記念品の交換を行いました。



◆その他の関連事業

* 朝鮮通信使講座の開催（H23年1月～H24年1月）

- ・ 対馬島内の小・中・高校へ出向き朝鮮通信使を中心に韓国との交流の歴史を学びました。（12校）
- ・ 一般市民向けの講座を開催し、朝鮮通信使を中心に韓国との交流の歴史・人物、史跡等の視察研修会などを実施しました。（全15回）

* 「広報つしま」に朝鮮通信使コーナー掲載（H23年1月号～H24年2月号）

対馬市の広報紙「広報つしま」に朝鮮通信使コーナー「海道をゆく」ページを設け、2011年1月号～2012年2月号まで、対馬大会の開催告知及び第1回から幻の第13回までの通信使を紹介しました。

※対馬市のHPでもご覧いただけます。

対馬市HP：<http://www.city.tsushima.nagasaki.jp>

* 壁画描画

厳原港の近くにある消防団詰所の壁に、朝鮮通信使をテーマとした壁画を作成しました。図案作成から描画まで対馬高等学校美術部員によるもので、8月22日に完成しました。



* 朝鮮通信使特別史料展

(10月4日～11月27日)

長崎県立対馬歴史民俗資料館を会場に、特別史料展を開催いたしました。古文書、絵巻、絵図、倭館ミニチュア模型、饗応料理レプリカなど37点の史料を展示しました。展示資料の借用等たくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございました。



* 縁地観光PR展

(10月29日～11月8日)

国内縁地のポスターやパンフレットの展示、韓国からは釜山文化財団によるチマ・チョゴリの試着・撮影会、朝鮮通信使歴史館のPR等を行いました。

* 絵画コンクール展 (11月1日～11月21日)

「朝鮮通信使」「対馬の歴史・史跡」をテーマに地元中学生から応募いただいた作品を展示しました。

* 朝鮮通信使写真展 (11月5日～11月15日)

写真家仁位孝雄氏による文禄慶長の役、朝鮮通信使の足跡、ペギンセ舞踊団の写真及び地元高校生による日韓交流に関する写真を展示しました。

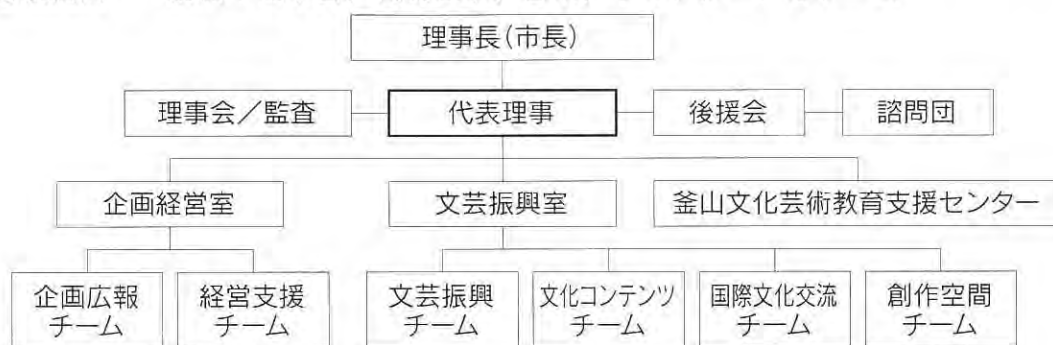
* その他の関連イベント

- ・ 11月5日 万松院まつり同時開催 (対馬藩菩提寺「万松院」)
- ・ 11月5日・6日 物産展等の開催
(城下町朝市、石焼きバイキング、マグロ解体ショー)
- ・ 11月5日～12月11日 対馬アートファンタジア開催

財団法人 釜山文化財団の現況

◆財団法人 釜山文化財団の現況

- 設立年度：2009年1月
- 所属：釜山広域市／(財)釜山文化財団
- 位置：釜山広域市海雲台区 セントム通路41 4階
- 沿革：2009.01.05 法人設立許可（釜山市）
第1代 姜南周（カン・ナムジュ）代表理事就任
2010.04.26 朝鮮通信使の業務委託
2011.02.07 第2代 南松祐（ナム・ソンウ）代表理事就任
- 組織図 組織：理事会、代表理事、2室、1センター、6チーム



- ホームページ：(財)釜山文化財団 (<http://www.bscaf.or.kr>)

○内容

財団法人釜山文化財団は、文化と芸術が息づく釜山文化のルネサンスを夢見る！釜山文化財団は、文化芸術を通じて釜山市民の生活の質を豊かにして、釜山をもっとも住みよい文化都市に作っていくために出帆した財団である。

釜山文化財団は、釜山が世界的な文化都市として成長できるよう、文化インフラを構築している。また、文化芸術活動の企画、支援、執行、文化芸術関連のデータベース構築など、釜山文化のアイデンティティを確立する地域文化の実質的な中心的役割を引き受けて、釜山文化の新たなパラダイムの変化を予告している。

※財団法人釜山文化財団の主要事業

釜山文化財団は、芸術団の地域訪問公演支援、メセナの活性化支援、公演芸術団体の育成、芸術人の創作空間の造成などの「文化芸術支援事業」、釜山文化フォーラムの運営、伝統民俗遊び場の運営、ピーボーイ公演、公演観覧費用の支援などの「文化芸術体験の機会拡大事業」、他には朝鮮通信使祭り、朝鮮通信使歴史館の開設及び運営などの様々な活動をしている。

◆朝鮮通信使国際文化交流事業

- 目的：朝鮮通信使精神を継承、未来志向的国際文化交流を目標に能動的で活発な国内外民間文化交流活動を展開

- 支援対象：市民及び文化芸術教育団体
 - 2011 朝鮮通信使祭り（釜山行事）
 - 日本 縁故都市行事（対馬、下関、福岡、東京）
 - 学術行事（学術シンポジウム、学術誌発刊）
 - 広報事業（童話、デジタルコンテンツ開発）
- 2011年の実績
 - 11.1～2：年間の細部計画立案及び承認
 - 11.5.6～8：2011 朝鮮通信使祭りー海神祭、朝鮮通信使の夕べ（舞台公演）、パレード
 - 11.8.6～8：対馬アリラン祭ー朝鮮通信使行列再現
 - 11.8.20～21：下関馬関祭りー朝鮮通信使行列再現、文化行事
 - 11.9.17～18：福岡アジアマンスー文化行事、展示体験
 - 11.10月中：東京新宿行事ー朝鮮通信使行列再現、文化行事、釜山市広報



2011朝鮮通信使祭り

- 期待効果
 - 日本人等観光客誘致で釜山観光活性化に寄与
 - 朝鮮通信使の遺産を発掘調査し、ユネスコ世界文化遺産登録
 - 平和の使節である朝鮮通信使を媒介とした歴史都市、平和都市釜山を積極的に広報してイメージ向上に寄与

2012 朝鮮通信使祭り日程表(案)

区分	行事名	日付	場所	備考
2012 朝鮮通信使祭り (5.4～5.6)	朝鮮通信使広場「動く歴史館」	5.4(金)～5.6(日)	龍頭山公園広場	朝鮮通信使「動く歴史館」特別展示館の構成：遺物展示、体験イベントなど
	朝鮮通信使学術シンポジウム	5.4(金) 13:00	釜山市役所国際会議室	基調講演及び朝鮮通信使研究発表／討論／学術紙発刊 (朝鮮通信使学会支援)
	海神祭	5.4(金) 18:30	龍頭山公園特設舞台	海神祭、文化公演、歴史館PR
	朝鮮通信使の夕べ	5.4(金) 19:00	光復路入口	日本側の芸術団の街頭公演
		5.4(金) 19:30	龍頭山公園特設舞台など	韓日芸術団の交流公演
	2012 朝鮮通信使パレード	5.5(土) 13:00	龍頭山公園光復路入口	先頭行列、朝鮮通信使行列、ようこそ日本行列、ダイナミック釜山行列、平和の太鼓（市民行列） ※韓日ふれあいマダン（公演） 出発セレモニー
朝鮮通信使韓日縁故都市交流大会	5.5(土)～5.6(日)	釜山市内一円	朝鮮通信使縁故都市の関係者交流イベントー遺跡地見学、縁地連総会、祭り参加、交流の夕べなど	

朝鮮通信使歴史館の現況

- 開館日：2011年4月21日
- 所属：釜山広域市／(財)釜山文化財団国際交流チーム 委託運営
- 位置：釜山広域市東区子城路99 朝鮮通信使歴史館
- 規模：1階(3D映像広報館、休憩及び展示空間、事務室)、2階(展示室、屋外空間)
- 面積：全面積 850㎡/ 延面積 578.15㎡
- 勤務人員：8名
- ホームページ：朝鮮通信使歴史館 (<http://www.historytongsina.com>)
- 内容

釜山広域市東区凡一洞の子城台公園内、永嘉台の隣にある朝鮮通信使歴史館は、壬辰の乱以後、12回にわたって日本に派遣された通信使について、誰にでも面白く理解できるように作られた歴史教育の現場である。最先端のマルチメディア技術を活用した多様な展示コンテンツ、充実したプログラムなどにより、歴史への理解を深める機会を提供している。

○第1展示館

第1展示館は、通信使の定義と壬辰の乱以後の日本との国交回復までの過程をアニメーションで見ることができ、通信使の派遣の手続き、旅程、人物、韓日外交の中心地、倭館についても詳しく説明されている。また、子供達の目線に合わせて製作した3D映像を視聴することができる映像室も設けられている。



○第2展示館

第2展示館は、朝鮮通信使一行が乗った船の模型(板屋船)が展示されている。日本へ派遣された当時のひどく険しい道のりを描いた映像をはじめ、通信使の主要行程が見られる模型地図や江戸(現在の東京)城に入って行く通信使の行列を再現した鮮明な8面映像を鑑賞することができる。また、永嘉台へ続く屋外スペースが設けられていて、観覧客に快適な休息の場を提供している。



※朝鮮通信使歴史館の観覧案内

利用時間	9:00~18:00/17:30まで入場可能
予約及び問い合わせ	TEL : 051)631-0858 FAX : 051)631-0859
入場料	無料
休館日	毎週月曜日、1月1日休館 (ただし、月曜日が休日の時は翌日平日が休館)

◆2012年月別事業日程表(案)

事業名	時期	内容
名作3D映画祭	1.17(火) ~2.26(日)	冬休みを迎え子供のための名作3D映画及びアニメーションを上映
朝鮮通信使文化伝承 1日体験学習	3月中	歴史館で体験活動、ミニゴールデンベル、服飾体験、海神祭体験など ※教育庁 予算確保の時に推進
春季朝鮮通信使講座	3月中	朝鮮通信使をテーマにした講座(2週間 火・木 計4回)
倭館復元模型展	4~5月中	朝鮮通信使祭りと連携して在日史学者の夫学柱先生の倭館復元模型を展示
朝鮮通信使 料理模型展示	6月中	朝鮮通信使に関する饗応料理模型展示(下関市所蔵)
名作アニメーション FESTIVAL	夏休み中	夏休みを迎え子供のための名作アニメーションを上映
秋季朝鮮通信使講座	9月中	朝鮮通信使をテーマにした講座(2週間 火・木 計4回)
遺物見学会	9~10月中	朝鮮通信使に関する遺物1点展示(計画中)
遺物見学会	11~12月中	朝鮮通信使に関する遺物1点展示(計画中)
シルバー映画祭	11~12月中	シルバー世代のための名作映画を上映

“海とみどり 歴史を活かす癒しの島 壱岐”

日本と中国・朝鮮半島との間に位置する長崎県壱岐市は、「玄界灘の宝石箱」と称される美しい島で、中国の歴史書『魏志倭人伝』に「一支国(いきこく)」として登場します。

時に日本は弥生時代。当時の様子を今に物語る国指定特別史跡「原の辻(はるのつじ)遺跡」をはじめとして、日本の黎明期から近世・近代に至る各時代に、壱岐が日本の歴史に深く関わったことを示す数多くの歴史遺産が島中に存在します。

まだまだ謎多き古代の宝庫。森羅万象に神やどる「神々の島」。宝石色の海が島を囲む美しい自然。特選素材を堪能する壱岐グルメ。

朝鮮通信使も通った“海の道”にある壱岐へ、ぜひ一度お立ち寄り下さい。



国指定特別史跡「原の辻遺跡」
(復元建物群)



壱岐市立一支国(いきこく)博物館
平成22年3月オープン。設計デザインは、世界的建築家・故黒川紀章氏で、氏の国内での遺作となった建築物。「海」を介した交流・交易」をテーマとした展示内容。眼下に原の辻遺跡を望む。



神楽の国宝「壱岐神楽(いきかぐら)」
壱岐神楽は、700年もの古い伝統と格式をもち、他の地方の神楽とは異なり、舞も音楽も神職のみで奏される極めて神聖な神楽。国重要無形民俗文化財。



筒城浜(つつきはま)海水浴場
「日本快水浴場100選」にも選ばれた壱岐随一のビーチ。白くてきめの細かい砂浜が約600m続き、遠浅で波も穏やかなため、夏には多くの海水浴客で賑わう。



辰ノ島巡り遊覧
壱岐島の北部にある勝本港の沖約1kmに浮かぶ無人島。宝石色の海と海蝕作用でできた自然の造形美は無人島ならではのもの。大自然を感じることができる景勝地。



“絶品グルメ”と“壱岐焼酎”

《生うのに“ほっかけ井”》 《剣先イカ「壱岐剣(いきつるぎ)」》 《壱岐牛と海の幸のコラボ》
豊かな“山海の幸”に合うのは、地元で作られる“壱岐焼酎”。壱岐は、麦焼酎発祥の地といわれ、「壱岐焼酎」は、平成7年にWTO(世界貿易機関)より、地理的表示の産地指定を受けた。
世界では、ウイスキーのスコッチやバーボン、ブランデーのコニャック、ワインのボルドーやシャンパーニュなどと同じで、世界ブランドの仲間入りを果たしている一品。



～「朝鮮通信使」に縁のあるもの～ 《朝鮮通信使迎接受跡絵図(個人所有)》



※迎接受の配置及び部屋の用途を記した平面設計図

《朝鮮通信使迎接受所神皇寺跡》(壱岐市指定文化財)



迎接受所だった場所の一部のみ現存。現在は、阿弥陀堂として使用されている。

第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会対馬大会に参加して

かみのせき郷土史学習にんじゃ隊

事務局長 安 田 和 幸

1. はじめに

九州から132km、韓国から49.5kmの海上に位置する国境の島対馬において4度目の開催となる大会は、江戸時代、最後の通信使となった1811年（文化8）対馬易地聘礼（本来は江戸でおこなう国書交換式典を対馬においておこなうこと）から200年を記念しての開催であった。



対馬藩主の菩提寺「万松院」

対馬での大会行事は、会を重ねる度ごとに一層充実したプログラムや内容となり、参加者の評価も高く、満足度も上々であったように感じられた。

また、通信使縁地連絡協議会総会会場において、今年10周年を迎える朝鮮通信使日韓文化交流事業会の交流事業の拡大と、新しい文化交流の場となった朝鮮通信使のイベント等の充実や更なる友好促進を図るため、この200年を機に協定書の締結が行われたことは大変意義深い。

厳原町のいたる所に残っている江戸時代の屋敷の遺構、対馬独特の石垣や石塀は、かつて訪れたときには崩れたまま放置され、歴史を経た悲哀を感じさせるものがあったが、今回は、歴史の町の香りは色濃く残しながら丁寧に整備され、新しい町並みとレトロな石垣・石塀とが互いに融合して、対馬独特の景観をかもし出して、訪れる者の心までも惹きつけていた。

2. 主会場について

2006年（平成18）10月、オープンしたという対馬市交流センターは「暮らしと文化が会う街」をテーマに、1999年（平成11）に作成された基本計画に基づき、第1種市街地再開発事業として建設された、商業施設と公共施設が入った官民一体型の複合施設である。

交流センターは、建築面積約5,355㎡、地上4階、地下1階の鉄骨造りで、総事業費約56億円。

1階の全部と2階の半分は商業スペースとなっている。



対馬交流センター大会会場入口

1階の道路側には、吹き抜け状の屋根付き多目的ポケットパークが設けられ、朝市・自由市場として広く市民に開放。

2階の半分には吹き抜けのイベントホールが設けられている。3階半分と4階は公共施設の公民館、図書館として使用。

地下には150台収容できる駐車場も設けられ、複合施設ゆえの相乗効果により活性化の拠点となっている。

今回、朝鮮通信使縁地連理事会・総会、研究部会総会・研究報告の開催は、3階の公民館施設において行われた。対馬大会の開会・閉会行事、基調講演、シンポジウム、市民ミュージカル等は2階イベントホールで開催と、同じ建屋内で一日の行事が全て実施できたことは、高齢者や障害者の方々も気軽に参加でき、大変魅力的に感じられた。



対馬交流センター 多目的ポケットパーク

3. 対馬市市民劇団を中心とした市民ミュージカル「対馬物語」について

今回の対馬大会に焦点を合わせて始まった市民ミュージカル。内容は、戦国時代から江戸時代の前期、対馬藩主の婚礼～朝鮮王朝との亀裂から通信使来聘までを核とした激動の歴史を物語にしたもの。

対馬市市民劇団を中心に、市民から募集した児童・学生・一般・市職員と市民グループ、さらには韓国歌舞団の参加協力を得ての市民ミュージカルを組織。この物語の脚本をジェームス三木先生に依頼、

演劇指導は劇団「わらび座」の先生の指導を受けて、日々稽古に励んだという。

市民ミュージカルの初演は大成功に終わった。幕が下りると同時に割れるような拍手がおこった。拍手は、観客たちの感動を物語るように、次第にわき上がるよう大きくなって、いつまでも鳴り止まなかった。

その後、シンポジウムが催された。その中で、財部対馬市長は次のように述べられた。「皆さんが観覧されたミュージカルで気付かれたように、国境に位置する対馬の苦悩が演じられました。しかし、そこが対馬のアイデンティティー（独自の性質や特徴）そのもの

18回朝鮮通信使ゆかりのま 全国交流会対馬大会



財部対馬市長あいさつ



松原理事長あいさつ

でもあると感じました。文化の違いゆえ、朝鮮通信使を介しての交わりも、国際交流の悲喜こもごもあるわけですが、それをぶつけ合いながらも、受け入れてはじめて始まるものと理解しています。

この市民劇のテーマこそ対馬の「財」であり、これこそ高校生をはじめ市民の皆さまが参加して、年に一度は演じ続けていくことで、対馬の未来を創造することに直結するのではと感じました」市民ミュージカルへの取り組みの意図が明確に分かると



市民ミュージカル：通信使を迎えて歓迎の場面

ともに、財部対馬市長のこの言葉の中にこそ、まちづくりへの大きなヒントがあると感じた。

4. 朝鮮通信使再現行列について

通信使再現行列が、各市町のイベントとして毎年行われるようになったのは、1999年（平成11）対馬大会以後からだ記憶している。

当初、厳原町の有志で結成され、その後、毎年8月に催される対馬アリラン祭として定着、国内外から多くの観光客が訪れる目玉となった。

勿論、朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会においても通信使再現行列は大会行事の花形となり、行列を見るのを目的に参加する者も多く、集客力の高さといまっけて年々盛大になっている。特に2003年（平成15）、第9回大会は韓国で開催したいという大会関係者全員の長年の夢が実現、韓国釜山広域市で開催された。これ以後、釜山広域市では毎年5月、朝鮮通信使祭りが開催されるようになり、国民の関心も高く通信使行列への参加者は千人を超え、今なお増え続けているという。今回の対馬大会での朝鮮通信使再現行列は、地元の高中生をはじめ、企業、海・陸自衛隊、官公庁などに加えて韓国からは楽人として高校生の宮中吹打隊やペギンセ舞踊団などの応援も得て総勢241名の通信使再現行列であったという。

5. まとめ

対馬は古代から近代まで、永く外国からの侵略に対して日本の防波堤として重要な役割を担ってきた反面、大陸や朝鮮半島への進出の最前線をも担ってきた厳しく暗い歴史をもつ。その歴史の中でも260年にわたる江戸時代、12回の朝鮮通信使において、徳川幕府と朝鮮王朝との間に挟まれ、交渉役としてさまざまな血のにじむ努力を強いられた歴史があり、その中で粘り強い交渉力・外交術は必然的に培われたといえよう。それを的確に著した次のような一文が何かに載っていた。「歴

史的に日本と半島との関係において、対馬藩が仲立ちをしたときは両国の交流がうまく収まったが、中央が直接動いたときはいつも不幸であった」と。

交渉事にはコミュニケーションがもっとも大切だといわれる。コミュニケーションの成立には、培った知恵と、型に囚われない外部の知恵との校合が求められる。対馬藩主は歴代、常に新しい能力を他国から求めていたという。当時最先端の教育を受け、外部からの目をも合わせ持つ優れた儒学者たちが英知と博識を駆使した結果、江戸時代という厳しい時代においても対馬藩は隆盛を極めることができたのではと思う。

財部対馬市長は「歴史を学び、活かす」。実践の一環としてIターン者の採用に2年前から力を入れ始め、今年度は、さらに関東方面の若者5名を「島おこし協働隊」員として採用し、外部からの知略・行動力の注入を始められたこともおおいに注視すべきことと思う。

◎今回の研修において注目すべき3つの点

- ▼1つ目は、拠点としての顔「対馬市交流センター」。研修の場であり国内外からの観光客が一堂に集うことのできる交流の場、また、市民の文化向上の場、交流の拠点としての顔といえる。
- ▼2つ目は、人材を育成する場としての市民劇団。まちづくりの大きな資源としての歴史を市民劇として活用、子どもから大人まで幅広く登用、市民に自信と対馬人の誇りを育むコミュニケーション作りの顔といえる。
- ▼3つ目は、イベントの顔としての朝鮮通信使再現行列の開催。再現行列は、日本に留まらず今やアメリカでも催されるなど、ビッグイベントとして未知への可能性を秘めた行事である。異国の衣装をまとい、異国のメロディを奏でながら軽やかに舞い踊る行列、それらが入り交って異国情緒をかもし出し、江戸時代にタイムスリップしたような趣のある朝鮮通信使再現行列は、イベントの顔としての魅力十分である。

最後に、上関町の朝鮮通信使に関する史跡や遺構、古文書類は決して他の市町に劣らないものであることを強調したい。一例をあげると、超専寺の「朝鮮通信使上関来航図」を中心に、絵図に描かれた現存する施設（旧上関番所、御茶屋正門の石垣部分、神社仏閣、菅原天神社の石灯籠、龍ヶ鼻常夜灯、小泉家の拝領屋敷・墓所、通信使に使われた井戸、扁額など、観光資源として活用するには潤沢だと思っているが、現在のこの資源は十分に活用されているとはいいがたいのではないだろうか。上関での朝鮮通信使は、今や県内外にも広く知られ、これを放つとくには、あまりにももったいない！と思っている。ゆえに早急に通信使再現行列に取り組み、大会実現にこぎつけて、イベントの顔として、大切な町・上関町のまちおこしの一環として、ぜひ活かして欲しいと願っている。

2012年下関市のイベント紹介

本州最西端に位置する下関市は、古くから大陸との交通の要衝であり、また朝鮮通信使使節団一行の本州最初の上陸地でもあります。

そのようなことから、当時、朝鮮通信使一行が宿泊した阿弥陀寺（現在の赤間神宮）前には、「朝鮮通信使淹留の地」記念碑が建立されており、また、毎年夏に開催される下関三大まつりのひとつである「馬関まつり」では、朝鮮通信使行列の再現と日韓文化交流公演が行われています。



このように韓国と深い関係にある下関は、1970年に日本初の国際定期航路「関釜フェリー」が就航し、1976年には韓国釜山広域市と姉妹都市を締結しました。昨年、下関市・釜山広域市姉妹都市締結35周年を迎えたことから、その記念事業の一環として、韓国の食材や民族衣装を取扱う店舗や焼肉店などが軒を連ねるグリーンモール商店街入口の下関駅前人工地盤に韓国風楼門の「釜山門」を設置し、新しい名所の一つとなっています。

また、下関は海峡と歴史のまちとしても知られています。海峡と歴史をテーマとして、毎年5月2日～4日に開催される「しものせき海峡まつり」では、源平最後の戦いとなった「壇ノ浦の合戦」で亡くなった幼帝・安徳帝を偲んだ先帝祭や武者行列をはじめ、今年武蔵・小次郎の決闘から400年を迎える巖流島でも、巖流島フェスティバルが開催されます。

多くの皆様の下関へのお越しをお待ちしております。

◆イベント一覧

日 程	行 事 名	場 所
5月2日～4日	しものせき海峡まつり	赤間神宮・巖流島ほか関門海峡沿岸一帯
8月25日・26日	しものせき馬関まつり (朝鮮通信使行列再現あり)	JR下関駅から唐戸までの各所
11月23日	下関さかな祭り リトル釜山フェスタ	下関漁港 グリーンモール商店街
2月11日	下関ふくの日まつり	南風泊（はえどまり）市場

蘭島文化振興財団「松濤園」のご紹介

1. 蘭島文化振興財団「松濤園」の紹介

当財団のある呉市下蒲刈町は、平成15年4月呉市と合併するまで長く単独町制を敷いていました。平成のはじめ、下蒲刈町は全島庭園化（ガーデン・アイランド）構想をまとめ、島おこしに取り組み文化施設を設置していきました。その文化施設の中核である松濤園は、平成6（1994）年3月に開館し、再来年で20年を迎えます。園内には4つの展示館が併設しており、朝鮮通信使資料館〈御馳走一番館〉、〈あかりの館〉、〈陶磁器館〉、〈蒲刈島御番所〉があります。



朝鮮通信使の豊富な資料を展示している〈御馳走一番館〉は、明治中頃に建てられた富山県砺波地方の代表的な商屋造りである「有川邸」を移築した建物です。来日した朝鮮通信使をもてなした際に「安芸蒲刈御馳走一番」と言われたことから名づけられました。展示品には、本陣や長雁木などを再現したジオラマ模型や、当時の朝鮮通信使を再現した等身大の人形、さらに精密に再現した10分の1の朝鮮通信使船の模型や、全国から集めた朝鮮通信使の人形、そして朝鮮通信使関連の絵画や資料など、往時をしのぶ資料を多数展示しています。

また〈あかりの館〉は、山口県上関町の旧家「吉田邸」を移築したもので、吉田家は寛延度、明和度の2度に渡って世話役を引き受けた記録があります。朝鮮通信使を通して関連のある上関・吉田氏であります。現在は建物と共に譲り受けた資料のほか、世界の灯火器コレクションを展示しています。

2. 松濤園所蔵「朝鮮通信使行列図」

国書に乗せた輿を中心として、三使の輿が続き、楽器を演奏しながらの行列である。一人一人の表情には、厳しき、楽しき、つらきなどいろいろ見ることができる。先頭にはおみやげの虎豹皮をかついでいる者が見られる。作者・年代は不明である。



3. 蘭島文化振興財団のイベント

毎年10月頃には、下蒲刈町内の三之瀬地域で、「朝鮮通信使再現行列」のイベントを行っています。島内をはじめ、参加者が一体となってくり広げる行列の様子は圧巻です。10回目を迎える今回は、10月21日（日）に行います。

「長浜・戦国大河ふるさと博」を開催します！

長浜市は、滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接しています。東には伊吹山系の山々、西に琵琶湖が広がり、中央には、琵琶湖に注ぐ姉川や高時川、余呉川等により形成された平野部に市街地や集落が広がり、県内でも優れた自然景観を有しています。また、北国街道や北国脇往還、戦国時代を偲ばせる小谷城跡、姉川古戦場、竹生島や国宝十一面観音立像、賤ヶ岳古戦場など優れた歴史的文化遺産を有しています。

平成の大合併により、平成18年に長浜市と近隣2町が合併し、平成22年1月から新たに近隣6町が加わり新しい「長浜市」が誕生しました。面積、人口とも県下有数の規模を誇る都市となりました。

今回の本市の合併を契機として、昨年11月4日対馬市交流センターにおいて長浜市・対馬市両市長の間で「友好のまち縁組」の締結式が行われました。

旧高月町では、平成10年に当時の敵原町との間で「友好のまち縁組」を締結し、平成21年には敵原町が対馬市として誕生されたのを機に、両市町の間で縁組を締結し交流を続けてきました。今回の縁組により、更なる交流を市民挙げて取り組むこととしています。

また、長浜市では、昨年はNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」の放映にあわせて全市を挙げて取り組みました「江・浅井三姉妹博覧会」には、全国各地から当初予想を大きく上回る約120万人ものお客様にお越しいただきました。この紙面をお借りしまして厚くお礼申し上げます。合併後の旧市町域を超えて実施したことで各地域の持つ魅力を結びつけ、市全体の一体感の醸成に繋がる非常に意義深い事業となりました。

この勢いを、今年3月から12月にかけて開催する「長浜・戦国大河ふるさと博」に繋げ、市内にきら星のごとく点在する430を超える指定文化財や歴史的遺産、地域の魅力を全国へ発信してまいります。地域の歴史や文化、そして美しい自然を巡る旅をお楽しみいただきたく、会員皆様のお越しを心よりお待ちしております。

■会期 平成24年3月24日～12月2日 254日間

■会場 【小谷・あざいエリア】小谷城野外博物館会場、戦国の駅・あざい会場

【賤ヶ岳・きのもとエリア】賤ヶ岳野外博物館会場、戦国の宿・きのもと会場

【竹生島・ながはまエリア】竹生島野外博物館会場、戦国の町・ながはま会場



互いの市旗を披露する両市の市長と議長
左から吉田長浜市議会議長、藤井長浜市長、作元対馬市議会議長、財部対馬市長



「友好のまち縁組締結書」に署名する
藤井長浜市長（左）と財部対馬市長（右）



平成23年開催「江・浅井三姉妹博覧会」ロゴマーク



平成24年開催「長浜・戦国大河ふるさと博」ロゴマーク



「江・浅井三姉妹」～戦国で生きた姫たちのふるさと～



来場者100万人達成記念式 2011.10.29



平成24年開催
「長浜・戦国大河ふるさと博」
パンフレット表紙

平成23年度芳洲会（高月町）の活動

1. 厳原町日吉地区との交流の旅

高月から対馬までの距離は遠い。しかし、対馬で私たちの到着を待っていてくださる方がおいでになると思うと、その旅も短く感じられました。前回、前々回の対馬旅行の体験を話し合っていると、あっという間に博多に着きました。ここまで来たら、30分余りの空の旅です。

日吉地区との交流は昭和59年に遡ります。雨森から36名が厳原町を訪れました。平成23年度も7月22日に雨森自治会の会員15名が対馬の厳原町を訪問し、まず長寿院裏の山頂にある芳洲先生のお墓に参り、花を手向け合掌しました。その後、対州海運本社で財部能成対馬市長、対馬芳洲会松原一征会長、日吉地区の役員の方々と再会し、盛大な歓迎を受けました。翌日は島の中部へ連れて行っていただき、西漕手、亜麻テ留神社、豊玉姫をまつる和多都美神社や鹿笛・青銅器で有名な峰町歴史民俗資料館などを見学することができました。

海に囲まれた人々の暮らしや朝鮮との交易の中で栄えた歴史に思いを馳せ、新たな気づきができたことに感謝いたしております。そして、人との出会いが交流を重ねる中で結びつきにと発展し、お互いを知るだけでなく、自らの郷土の歴史や地理についての理解も深まっていくということ。そうした感慨を抱いた旅をすることができました。対馬の皆様、お世話になりました。

2. プサン蓬萊初等学校との交流

富永小学校は、荒木まつゑ校長をはじめとして全教職員が芳洲会会員になっておいでです。また、保護者の多くも会員であり、江戸時代に草梁倭館が置かれていた跡地に学校があることから、平成3年に交流が始まりました。児童の書写や絵画作品の交流や職員の相互訪問などの交流を重ねてきました。平成22年度に蓬萊初等学校の校長先生以下数名の先生方が当地にお越しになり、本年は小学校5・6年生23名が3名の先生方とPTA会長・保護者8名に引率され訪韓いたしました。

プサン広域市中区長 金恩淑氏、蓬萊小学校歴代校長先生、生徒・保護者会の熱い歓迎を受け、両国の国家演奏、国旗の掲揚で歓迎式が執り行われました。来賓挨拶の後に両校の校長先生・児童生徒代表の挨拶が交わされ、韓国の学校生活を紹介するプレゼンテーションを興味深く拝見しました。

交流会で子どもたちは、歌や踊りを披露し合い、宿泊会場においてもグループごとに食事や入浴、レクレーションを楽しみました。お互いに相手の言葉が十分にわかるわけではありませんでしたが、ジェスチャーや単語を言い合う中で意思疎通をしようとしていました。この旅行の前に、韓国語講師を招いてハングルの勉強をしたり、挨拶や数字表現などを勉強したことも、コミュニケーションを図ろうとする積極的な姿勢づくりに役だったのではと受け止めています。

24年度は、蓬萊初等学校の生徒（韓国では小学生も「生徒」というようです）が富永小学校を訪れることになっています。実りある交流ができるよう芳洲会もお手伝いをさせていただきたいと考えています。

3. 雨森芳洲関連図書を市内全小中学校に寄贈

平成21年1月に高月町は長浜市に合併されました。従来の町内4小学校、1中学校から小学校27校、中学校13校にと校数も増え、市の地域も広がりました。市内の各地域に先覚者がおいでになり、立派な歴史がある中でも、雨森芳洲は教育者、儒学者、言語学者、外交家であるとともに生涯学び続けた希有の存在です。

芳洲会では、市内各小中学校の校長先生に東アジア交流ハウス芳洲庵館長 平井茂彦著「雨森芳洲」を贈呈し、まずは指導者である先生方に読んでいただき、道徳や学級活動の資料として活用いただくよう依頼をいたしました。また、同書を図書室にも置いていただき、児童生徒が手にできるよう配慮を求めました。受領書とともに、校長先生からは早速全校集会で子どもたちに講話をしますとの礼状が届いております。

4. 高月観音の里歴史民俗資料館にて「芳洲の詩歌」特別陳列開催

江戸時代中期に対馬藩に仕えた儒学者、雨森芳洲は卓越した外交思想を実践した外交家であり、優れた教育者・言語学者として名を馳せた人物です。また、彼は晩年81歳の頃より和歌を学び始め、「古今和歌集」千遍読みと、和歌一万首の詠草を成し遂げます。

2月1日（水）から3月18日（日）まで、雨森芳洲資料（重要文化財、芳洲会所有）の中から、芳洲の「和歌と漢詩」に焦点をあて、書軸や著書類を紹介し、いつまでも衰えることのない向学心を持ち続けた芳洲の新たな一面に迫ります。

資料館は高月駅から徒歩6分。資料館はJR入館料は一般300円、小中学生150円。20名以上は団体割引あり。

■主な展示資料

- ・芳洲詠草 22冊のうち一部
 - ・雨森芳洲詩稿 1冊
 - ・「寄贈新井勘解由在西京」七律 1幅
 - ・李東郭七絶「遊仙詩」1幅 ほか11件
- （資料館作成のパンフレットより抜粋）

大垣市の概要、朝鮮通信使と郷土館、イベント情報等の紹介

1. 大垣市の概要

大垣市は、日本列島のほぼ中央に位置し、中山道や美濃路が通る交通の要衝であったため、古くから東西の経済・文化の交流点として栄えるとともに、関ヶ原合戦などの天下分け目の戦いの舞台にもなっていました。俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の旅を終えた地としても全国に知られており、今でも俳句文化が息づく文化の薫り高いまちです。また古くから「水の都」と呼ばれ、その豊富で良質な地下水を利用して、岐阜県内有数の産業都市である「水と緑の文化・産業情報・交流都市」を目指して、「都市再生・活性化」、「安全・安心」「環境創造」、「子育て日本一」「かがやきライフ」の5つの重点プロジェクトに取り組み、これまでに築き上げてきた本市の魅力を最大限に発揮していくものです。



大垣城と城主戸田公像

2. 朝鮮通信使と大垣市郷土館

大垣市郷土館は、戸田公入城350年の記念事業として建設された施設で、昭和60年10月9日に開館しています。ここでは、歴代の大垣藩主戸田公の顕彰のほか竹島町に伝わる朝鮮山車付属品が展示されています。

平成17年には、朝鮮通信使縁地連絡協議会定期総会が大垣市で行われ、仲尾宏教授による挨拶、基調講演のほか「朝鮮通信使と美濃路」としたパネルトーク、そして十六町自治会による「豊年踊り」と大垣少年少女合唱団による大会歌「AGAIN」が披露されました。このうち十六町豊年踊りは、江戸時代から地元で伝わる伝統舞踊ですが、朝鮮通信使の影響を受けたものとして知られています。



郷土館外観



朝鮮通信使展示風景



大将人形(部分)

3. 大垣市のイベント等の紹介

①奥の細道むすびの地大垣

元禄2年(1689)の秋、俳聖・松尾芭蕉は、5カ月間の漂泊の旅をここ大垣で終えました。世に名高い「奥の細道」の旅です。その折、芭蕉は「蛤(はまぐり)のふたみに別行秋そ」と詠んで、水門川の船町港から桑名(三重県)へ舟で下りました。芭蕉が最初に大垣を訪れたのは貞享元年(1684)、「野ざらし紀行」の旅の途中、俳友・谷本因(たにぼくいん)を訪ねたのが始まりで、以降3回来垣しています。

芭蕉と木因とは、京都の北村季吟の門下生でした。当時大垣の俳諧は、大垣十萬石の城主戸田公の文教奨励もあって谷木因の指導のもと、大垣藩士らを中心に盛んでしたが芭蕉の4回にわたる大垣への訪れは大垣俳壇に新風を吹き込みました。これを機に「蕉風」俳諧は美濃一円に広がり以後美濃俳諧としての基礎が固まりました。明治、大正、昭和、そして平成。私たちのまち大垣は、奥の細道むすびの地として歴史的な遺産を大切に守りながら近代的な文化の香り高いまちづくりに取り組んでいます。



芭蕉像(左)と木因像(右)

②奥の細道むすびの地周辺整備事業

○大垣市奥の細道むすびの地記念館オープン

平成24年4月8日(日)には芭蕉館、先賢館、観光・交流館からなる「奥の細道むすびの地記念館」がオープンします。芭蕉館では、「奥の細道」紀行を旅路ごとに区切り、関連する資料と映像で紹介するとともに、俳聖・松尾芭蕉の人物像や旅に生きた人生を紹介します。先賢館



奥の細道むすびの地記念館 完成図

では、郷土大垣の歴史や文化・芸術を築き上げた先賢の偉業を紹介し、観光・交流館では、大垣を含めた西濃全体の観光に関わる情報を伝え、来訪者への物品販売などを行います。さらに大垣城の外堀でもある水門川を活かした観光事業を展開し、多くの方に楽しんで頂いております。

○舟下り芭蕉祭 春の舟下り

4月に行われる舟下り芭蕉祭では、舟下りやスタンプラリーである「ファミリー俳句ing」、「市民俳句まつり」などの催し物が開催され、当日は、歩行者天国「元気ハツラツ市」も同時開催します。

○たらい舟川下り

関ヶ原合戦の折に、石田三成に仕えた山田去歴の娘「おあん」が、たらいに乗って、落城する大垣城から抜け出したという戦国秘話に基づく川下りイベントです。

○芭蕉蛤塚忌(こうちょうぎ)全国俳句大会(10月)

※事前投句の部募集 5月～7月

大垣では俳句のまちを進めるため芭蕉蛤塚忌全国俳句大会や東西全国俳句相撲大会、16万市民投句などの俳句振興の行事を行っています。全国俳句大会では、午前中に芭蕉翁の顕彰のため、来賓参加者を中心とした献句披講、詩吟同好会による献吟、船からの色紙流し、蛤塚への献花などを行います。午後は、事前投句の部の表彰式と当日投句の部の表彰式及び記念講演を行います。

この他にも平成24年度は、岐阜清流国体が開催されます。多くの方のご来垣をお待ちしております。

出典：「市勢要覧」、「奥の細道むすびの地記念館 大垣市街地散策マップ」(大垣市商工課 出版)
「大垣市郷土資料館」(大垣市教育委員会 (財)大垣市文化事業団)

川越唐人揃いパレード

昨年、縁地連に加盟させていただきましたが、それまで「埼玉・コリア21」として加盟しておりました。「埼玉・コリア21」は2003年12月にわらび座のミュージカル「つばめ」上演をきっかけに結成され、朝鮮通信使の絵馬の見学や地元のコリア文化を訪ねるツアーなどをしてきました。

朝鮮通信使のことを多くの人に知ってもらいたいな、と考えていたときに思いついたのが川越の「唐人揃い」でした。川越には朝鮮通信使は来てはいませんが、江戸時代の川越氷川神社の祭礼に、町人が通信使の仮装行列「唐人揃い」を行っていました。その絵巻が氷川神社に残っていますし、通信使そのものを描いた絵馬も奉納されています。また、榎本弥左衛門という豪商が書き残した日記（『榎本弥左衛門覚書』東洋文庫）の中に1655年明暦の通信使を江戸で見物したことが記されています。その弥左衛門が町名主だった本町がのちに「唐人揃い」を行っていたのです。



それで、私たちは2005年から「復活！唐人揃い—朝鮮通信使—多文化共生・国際交流パレード」と銘打って実行委員会を結成しパレードを始めました。ただ「唐人揃い」を復活するだけではなく、現代の課題である「多文化共生・国際交流」をテーマに参加団体を募集しました。パレード参加者は毎回約20団体350~400名で、サムルノリや沖縄のエイサー、アイヌ、民族衣装などさまざまです。川越は「小江戸」と呼ばれ、蔵造りの通りがメインストリートです。そこを通行止めにしてパレードとパフォーマンスを行っており、毎年観客は5, 6千名ほどで大賑わいです。主催は実行委員会で、県や市などは名義後援のみ、運営資金は一口千円の協賛金を募ってこれまで7回やってきましたが、毎回いろいろな面で苦難の連続でした。

今年は第8回目ですが、川越市の市制90周年ということもあり、プレ企画も考えております。ぜひ一度見に来て下さい。

- 11月8・9・10日 朝鮮通信使の人形展・パレード等の写真展
 11月10日(土) 絵馬・絵巻展示会&講演・シンポジウム
 11月11日(日) 12:30~14:30パレード 15:00~16:00交流広場

第3次朝鮮通信使友情ウォーク 韓国だけの「感謝の旅」

「21世紀の朝鮮通信使 友情ウォークの会」

事務局長 遠藤 靖夫

11年4月1日にソウルを出発し、530キロのウォークを終えた後の同22日午後、雨の釜山港国際旅客ターミナルで韓国のメンバーと別れた。ここから対馬に渡り、東京までの「日本編」へ移行するのが私たちの本来の「朝鮮通信使友情ウォーク」なのである。しかし第3次の今回は、東日本大震災に配慮して「韓国編」だけで幕を閉じた。一緒に日本の旅を続けるはずだった正使・宣相圭氏（韓国体育振興会会長）や韓国の隊員たちにはなんとも申し訳なく、ひたすらお詫びしたい気持ちを抱いての別れだった。「2年後の第4次にはみなさんもう一度再結集して下さい。十分に準備してお迎えしますから」。そういうのがやっとだった。



「日本の大震災支援に感謝します」。ハングル文字で書かれたのぼりと日本隊（30人）全員がお礼のメッセージを記した小旗をザックにかざして歩いた。本来の朝鮮通信使の文字を染め抜いたのぼりも数本掲げ、3度目の道を龍仁～忠州～安東～慶州～蔚山とたどって20日午後、釜山市の

東萊府東軒へゴールした。

3月11日の大震災後、東北在住の3隊員から辞退届けもあり、私たちは開催か中止か、縮小してでもやるべきか、を議論した。このウォークが沿道自治体の被災地支援活動に少しでも妨げになってはならない。一方、韓国側には東京まで歩くことを楽しみにしている10人の隊員がいる。そのはざままで一度は被災地から遠く、史蹟が豊富な対馬から京都まで、と決めたのもつかの間、釜山～対馬の高速フェリーが長期運休となり、日本の行程すべてを断念する事態に至ったのである。

出発に際し、韓国の人々へ被災地支援の感謝を伝えな





から肅々と歩こう、とみんなで申し合わせた。3月31日の前夜祭は東日本被災者への黙とうから始まった。旅の日々も各地の歓迎セレモニーで首長から見舞いと激励の言葉を数多くいただいた。「ガンバレ!日本」と沿道で声をかけられたことは数え切れない。

ある日の夕食後、大震災直後に韓国の日刊紙に掲載された詩人チョン・ホースンの詩が朗読された。「日本よ 泣かないで下さい/日本よ 立ち上がって下さい…。朗読が進むにつれ、静かな慟哭が広がった場面は忘れられない。

朝鮮通信使は江戸時代の日韓平和のシンボルである。その友好の精神を実践し、伝えて行くことも大切と開催を選択した私たちを暖かく受け入れてくれた韓国。打ち上げの日、日本側から進呈した色紙の寄せ書きに私はこう書いた。「感謝、感謝、そして感謝」



日本国内の日程中止により、縁地連関係のみなさまにご迷惑をおかけし深くお詫び申し上げます。とくに再現行列を用意していただいた対馬市、小学校との交流を企画して下さった蘭島文化振興財団、会員との合同ウォークを進めていただいた「辛基秀と朝鮮通信使を研究する青丘文化ホール」と縁地連絡協議会の関係者の方々。今回は実現しませんでした。来年の第4次で再チャレンジをしたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いします。



第3次 21世紀の朝鮮通信使 全行程【ソウル～釜山・東萊】

0	前日	ソウル歴史探訪日	快晴	3月31日(木)
①	第1日目	ソウル[景福宮]～良才[浄土寺]	27km 快晴	4月1日(金)
②	第2日目	良才[浄土寺]～龍仁[市廳]	29km 曇	4月2日(土)
③	第3日目	龍仁[市廳]～竹山[竹州山城]	37km 晴	4月3日(日)
④	第4日目	竹山[竹州山城] ～昆池厓[笙極面事務所]	23km 晴	4月4日(月)
⑤	第5日目	昆池厓[笙極面事務所] ～忠州[監營]	38km 晴	4月5日(火)
⑥	第6日目	忠州[監營]～水安堡	24km 晴	4月6日(水)
⑦	第7日目	水安堡～聞慶[冠山之館]	22km 雨	4月7日(木)
⑧	第8日目	聞慶[冠山之館]～虎溪[聞慶市]	26km 曇/晴	4月8日(金)
⑨	第9日目	虎溪[聞慶市]～醴泉[郡廳]	30km 快晴	4月9日(土)
⑩	第10日目	醴泉[郡廳]～安東[東軒]	34km 快晴	4月10日(日)
㉑	第11日目	安東歴史探訪日	小雨/曇	4月11日(月)
⑫	第12日目	安東[東軒]～義城[郡廳]	33km 快晴	4月12日(火)
⑬	第13日目	義城[郡廳]～義興[面事務所]	26km 晴	4月13日(水)
⑭	第14日目	義興[面事務所]～永川[東軒]	40km 晴	4月14日(木)
⑮	第15日目	永川[東軒]～慶州[文化院]	37km 快晴	4月15日(金)
⑯	第16日目	慶州歴史探訪日	快晴	4月16日(土)
⑰	第17日目	慶州[文化院]～仇於[慶州市]	21km 快晴	4月17日(日)
⑱	第18日目	仇於[慶州市]～蔚山[東軒]	24km 曇/雨	4月18日(月)
⑲	第19日目	蔚山[東軒]～熊上[梁山市]	29km 晴	4月19日(火)
⑳	第20日目	熊上[梁山市]～釜山[東萊東軒]	25km 晴	4月20日(水)
㉑	第21日目	釜山歴史探訪日	快晴	4月21日(木)

FLAG



ウォークの先頭を歩く「隊旗」



全員が持つ「韓国のみなさんありがとう」の小旗



協力して下さった団体・お店や参加して下さった方々へ差し上げたペナント

大韓民国 国民の皆さん！
日本の地震被害に助けを
ださってありがとうございます。
社団法人 日本ウォーキング協会
朝鮮通信使 日・韓 友情walk会



日本隊が作成したノボリ



韓国隊が作成したノボリ

東日本大震災被災への支援を感謝して、急遽、作成したノボリ



大韓民国の皆さん！
日本の地震被害地域の
支援に感謝申し上げます。



日本の地震被害に支援をした
大韓民国の友情に感謝します



朝鮮通信使行列振興会

朝鮮通信使行列振興会は最後の朝鮮通信使200周年記念行事として開催された11月の第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会対馬大会の行列の再現及び易地聘礼（国書交換式）の儀式の実施を同実行委員会から任されました。

今回は、「最後の朝鮮通信使であること」、「対馬易地聘礼であること」に力点をおいて、「対馬ならではの」「対馬だからこそ」ということで史実にできるだけ忠実に再現しようということになりました。

まず、朝鮮通信使行列では、第12回目の行列ですから、ご存じのとおり従事官が随行していません。よって従事官の隊列はつくりませんでした。また、ご当地の対馬ですから、行列ルートも実際に200年前に通ったルートとしました。（本当は海からお城へと登るのですが、会場の関係で逆に下がっていくコースとなりました。）しかしながら、一直線に行列が並び、実に壮観な行列が再現できたと思います。また、行列の宗対馬守役は、まさしく宗家の末裔である「宗中正様」にわざわざ来ていただきました。対馬にまたがっていただき行列を引っ張っていただきました。また、正使にはこれまで日韓の朝鮮通信使文化交流事業に大変ご尽力いただいた前釜山文化財団の代表理事である姜南周様をお願いしました。まさしく千両役者そろい踏みでありました。



しかし心配されたのは第1日目から降り続いた雨でした。行列に参加予定の舞踊団は早々に衣装が濡れるため不参加の連絡がありました。もしや、ベクヤン高校の宮中吹打隊も不参加では…と心配されましたが、準備はするということになりました。本会の永留会長は仕事で対馬空港に関係があるため、空港に天気予報のことで何度も連絡をとっていました。そして「1時には雨は絶対止む！」ということで決行を決断されました。しかし行列スタートは2時です、ギリギリの準備となることが予想されました。

12時30分、雨はより激しいものになっていました。行列コースの警備員約50名の配備計画と警備内容の説明が市役所前で1時からあります。すでに数人のボランティアが半信半疑な顔で集まっていました。13時から、小雨の中、警備説明会が始まりました。しかし説明が終わるころには雨がピタッと止んでいたのです。

こうして、朝鮮通信使行列の再現は大成功におわりました。舞踊団の参加がなかったのも、史実どおりに再現しているからなんだと思われた方もいたようで、逆に厳かさが益したようでもありました。

次は本邦初公開、「易地聘礼の儀式（国書交換式）」です。対馬易地聘礼なのですから、これも対馬だからできることなのです。これも史実に忠実に再現しようということになりました。その参考になったのが佐賀藩士「草場珮川」（くさばはいせん）の津島日記なのです。参考ではなく台本と言った方がいいかもしれません。これを何回も読み返し、今風に編集しなおしました。日本語を日本語に訳したのです。これで全体の流れがおぼろげに見えてきました。そして今回の大会風にアレンジした台本が完成し、初めて行ういろいろな準備が始まったのです。

次は本邦初公開、「易地聘礼の儀式（国書交換式）」です。対馬易地聘礼なのですから、これも対馬だからできることなのです。これも史実に忠実に再現しようということになりました。その参考になったのが佐賀藩士「草場珮川」（くさばはいせん）の津島日記なのです。参考ではなく台本と言った方がいいかもしれません。これを何回も読み返し、今風に編集しなおしました。日本語を日本語に訳したのです。これで全体の流れがおぼろげに見えてきました。そして今回の大会風にアレンジした台本が完成し、初めて行ういろいろな準備が始まったのです。



まずは、衣装です。これまでは陣羽織のまま国書交換をしておりましたが、これは間違いがありました。日記には「衣冠、大紋、狩衣」などと書いてあります。もちろんこのような衣装



はこれまで使ったことはありません。そこで、永留会長が神主さんに相談し、一つ衣装を借りてきました。みんな初めて見る衣装でした。レンタル衣装をみますと、1着8万円を越えていました。全てをレンタルすると40万円ぐらいすることになりそうでした。そこで、一番高い衣冠は、ナント！作るようになりました。和裁の方が神主さんの衣冠から採寸し、2着を安く作っていただきました。その他の衣装は神主さんから借りたり、どうしても揃わない大紋

(素襖)はレンタル衣装で揃えることができました。

次に、舞台です。さすがに津島日記の中にも、会場の挿絵はありませんでした。しかしながら、内容を読むと、よくテレビで目にする大名が座っている段差のある座敷であることがわかりました。インターネットでそれらしき床の間の写真を探し、フリーハンドで床の間のイメージ図を書きました。さすがに餅は餅屋です。それを建設会社の方がうまく寸法をとっていただき、厳原体育館内に完璧に作っていただきました。(たった1日で壊してしまうのがもったいないほど、すばらしく作っていただきました。)

また、韓国の方にもお見せしなくてははいけません。台本を翻訳し、パワーポイントにおとして字幕を作成しました。これで同時通訳の時間を必要とせず、スムーズに進めることができました。小道具もすべて手作りです。驚きなのは、床の間にかけられた徳川家康の肖像画です。これは万松院に伝わる秘蔵の肖像画なのですが、写真をもとに本会員の1人が手書きで描いたものなのです。遠くからみると本物と見間違える出来映えでした。

最後に配役のキャスティングです。幕府代表の上使小笠原大膳大夫は縁地連の松原理事長に決定されました。しかし一番のみせどころである「国書交換の作法」をする対馬の守を誰がするか、また講談調のナレーショ



ンを誰に頼むか？ここが肝でした。対馬の守は神主の方に、そしてナレーションはなかなかお願いする人がいませんでしたが、最後にガイドの会の方をお願いすることができました。しかし、これがピタッときまりました。神主の作法を取り入れたキビキビした身のこなしと、会場内にとおる講談調のナレーション。引き込まれるような歴史絵巻の再現が繰り広げられ、すばらしい易地聘礼の儀式が厳かに執り行われたのです。

儀式の内容までご紹介しますとかなり長くなりますので省略しますが、今回の易地聘礼儀式は行列振興会会員と対馬市民が知恵と才能を出し合ってきた素晴らしい儀式となりました。

対馬ならではの、対馬でしかできない国書交換式。これをもって最後の朝鮮通信使200周年記念行事の全てを無事終えることができたのです。


朝鮮通信使縁地連絡協議会 会員名簿

H24.2.1 現在

	自治体	住 所	UコードQR
1	日光市	栃木県日光市今市本町1 日光市教育委員会 生涯学習課	
2	静岡市	静岡県静岡市葵区追手町5-1 静岡市役所 生活文化局 文化財課	
3	大垣市	岐阜県大垣市丸の内2丁目29番地 大垣市教育委員会 文化振興課	
4	長浜市	滋賀県長浜市高月町渡岸寺160 長浜市高月支所 地域振興課	
5	近江八幡市	滋賀県近江八幡市桜宮町236 近江八幡市役所 総合政策部 まちづくり支援課	
6	彦根市	滋賀県彦根市元町4-2 彦根市役所 企画振興部 企画課	
7	京都市	京都府京都市中京区寺町通御池上る上本能寺町488 京都市役所 国際化推進室	
8	兵庫区	兵庫県神戸市兵庫区荒田町1-21-1 兵庫区役所 まちづくり課	
9	瀬戸内市	岡山県瀬戸内市邑久町尾張300-1 瀬戸内市役所 まちづくり推進課	
10	福山市	広島県福山市東桜町3-5 福山市教育委員会 文化課	
11	呉市	広島県呉市中央6-2-9 呉市役所 観光振興課	
12	上関町	山口県熊毛郡上関町長島503 上関町教育委員会 教育文化課	
13	下関市	山口県下関市南部町1-1 下関市役所 市民文化課	
14	新宮町	福岡県糟屋郡新宮町緑が浜1-1-1 新宮町役場 生活振興課	
15	壱岐市	長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1 壱岐市役所 教育委員会文化財課	
16	対馬市	長崎県対馬市厳原町国分1441 対馬市役所 観光物産推進本部	



「UコードQR」欄の画像を携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、その団体が登録しているコンテンツ情報を閲覧することができます。

	団 体	住 所	UコードQR
1	青丘人権文化の会	大阪府門真市南野口町23-3	
2	財高麗美術館	京都府京都市北区柴竹上ノ岸町15	
3	かみのせき郷土史学習にんじゃ隊	山口県熊毛郡上関町室津549	
4	津市分部町唐人踊保存会	三重県津市東丸之内19-6	
5	唐子踊保存会	岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓5013	
6	芳洲会	滋賀県長浜市高月町雨森1166 雨森芳洲庵内	
7	朝鮮通信使行列振興会	長崎県対馬市厳原町国分1441	
8	対馬芳洲会	長崎県対馬市厳原町日吉388-9	
9	「静岡に文化の風を」の会	静岡県静岡市葵区上足洗3-12-39	
10	日朝協会愛知県連合会	愛知県名古屋市千種区小松町6-9-1	
11	日朝協会神奈川県支部連合会	神奈川県横浜市神奈川区泉町14-6 小林ビル3階	
12	唐辛子の会	静岡県伊東市池614-16	
13	東京対馬会	東京都大田区大森中2-6-6	
14	日朝協会東京都連合会	東京都千代田区三崎町2-11-13 東洋ビル501	
15	九州の中の朝鮮文化を考える会	福岡県筑紫野市筑紫駅前通2-252	
16	日韓交流・新宮チェビの会	福岡県糟屋郡新宮町下府1-2-31	
17	日本コリア協会・大阪	大阪府大阪市北区錦町2-2 国労大阪会館2階	
18	兵庫津・朝鮮通信使を知る会	兵庫県神戸市長田区腕塚町3-3-5	



「UコードQR」欄の画像を携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、その団体が登録しているコンテンツ情報を閲覧することができます。

朝鮮通信使縁地連絡協議会会員名簿

	団 体	住 所	UコードQR
19	日本コリア協会・福岡	福岡県糟屋郡新宮町下府1-2-31	
20	呉史談会	広島県呉市西中央1-6-15-201	
21	対馬観光物産協会	長崎県対馬市厳原町国分1441	
22	(財)蘭島文化振興財団	広島県呉市下蒲刈町下島2361-7	
23	NPO法人辛基秀と朝鮮通信使を研究する青丘文化ホール	大阪府堺市堺区三宝町1-10-1-811	
24	かみのせき史談会	山口県熊毛郡上関町室津868-2	
25	在日本大韓国民団大阪府堺支部	大阪府堺市堺区中安井町1-3-1	
26	対州海運株式会社	長崎県対馬市厳原町久田道1661	
27	21世紀の朝鮮通信使友情ウォークの会	埼玉県さいたま市緑区中尾275-4	
28	株式会社 コミュニティメディア	長崎市出島町1番43号 ながさき出島インキュベータ307号室	
29	在日本大韓国民団京都府地方本部	京都府京都市左京区下鴨宮崎町119	
30	軈の浦朝鮮通信使研究会	広島県福山市今津町893	
31	倭館再建の会	東京都杉並区高円寺北2-19-11 エイトコラムス内	
32	ギンザ柳々舎	東京都中央区銀座3-11-1 銀座三番館ビル2F オフィスイーヨー内	
33	川越唐人揃いパレード実行委員会	埼玉県さいたま市緑区中尾729-1	
34	社団法人韓国体育振興會	大韓民国seoul中區光熙洞1街89-1 Geumho Twin Officetel 2-702	
	朝鮮通信使関係地域史研究会	山口県熊毛郡上関町室津549-7	



「UコードQR」欄の画像を携帯電話のバーコードリーダーで読み取ると、その団体が登録しているコンテンツ情報を閲覧することができます。

H24.2.1 現在

	個 人	住 所
1	堀 ちづ子	広島県廿日市市
2	高 木 陽 二	神奈川県横須賀市
3	奥 村 隆 幸	岡山県瀬戸内市
4	中 尾 清	兵庫県神戸市灘区
5	大 賀 正 行	大阪府大阪市東淀川区
6	原 田 令 嗣	静岡県焼津市
7	渡 辺 泰 子	埼玉県さいたま市浦和区
8	萩 原 昭 一	長崎県対馬市
9	轟 博 志	大分県別府市
10	夫 学 柱	東京都杉並区
11	村 上 和 弘	愛媛県松山市

誠信交隣21
縁地連だより No.15

発行日 2012年(平成24年)3月1日

発行 朝鮮通信使縁地連絡協議会

〒817-0022

長崎県対馬市厳原町国分1441番地

TEL 0920-53-6111

FAX 0920-52-1585

HPアドレス <http://www.enchiren.net/>

印刷 (資)厳原印刷所